



吉野川分水 ウォーキングマップ



吉野川分水がもたらす大和平野の豊かな実り(明日香村雷付近から畝傍山を望む)

～吉野川分水とは～

「大和豊年米食わず」という言葉があります。これは、大和の国が豊作の年は、他の地域で雨が多く、洪水、水害で米がとれないという例えです。大和平野は年間降雨量が約1300mmと全国平均の約8割であり、大和平野を流れる大和川は流域が極めて小さいため、恒常的な用水不足に悩まされていました。

奈良県の悲願であった吉野川分水は、戦後の国土復興計画の一つとして、十津川・紀の川の水資源開発が位置づけられ、昭和25年、元京都祇園演舞場(プルニエ)で、奈良・和歌山両県の事業実施の協定が調印され、国の十津川・紀の川総合開発事業として開始されました。

この計画は、紀の川(吉野川)水系に大迫ダム、津風呂ダム、山田ダムを築造するとともに十津川上流に猿谷ダムを築造して、十津川の水を紀の川に流域変更することによって奈良・和歌山両県の水を確保したうえで、吉野川から下瀬頭首工で分水し大和平野に水を運ぶという壮大な計画でした。

昭和62年、地区内の用水路約330kmを含む全ての工事が完了し、大和平野の発展に大きく役立っています。また年月の経過により施設の老朽化が進んだため、平成11年に第二十津川紀の川土地改良事業に着手、平成13年に農業用水再編対策事業に着手し、改修整備をおこなうことにより、農業用水の安定供給を図っています。

奈良県農林部農村振興課 〒630-8501 奈良県奈良市登大路町30
TEL: 0742-22-1101(代表)
ホームページ: http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-1670.htm 平成23年3月31日作成



吉野川上流(吉野町)



下瀬頭首工(大淀町)



東部幹線26号開渠(明日香村)



円形分水工(香芝市)



第35回 古都からの あふれる緑 未来へと

全国育樹祭

平成23年11月20日 奈良県で開催

全国育樹祭は、全国植樹祭とともに毎年行われている国民的緑化行事です。奈良県では、昭和56年に平城宮跡で全国植樹祭が行われました。それから30年となる今年、森林の重要性を再認識し、私たち一人ひとりが森林を守り育てという気運をより一層高めるため、同じ会場で「第35回全国育樹祭」を開催します。